

あてつまんさく

新見の農業情報

普及だより 2018 年号



新見農業普及指導センター

目 次

1 担い手確保と育成

- (1) 新見で農業を始めませんか～相談会や短期農業体験研修でPR～ . . . 1
- (2) 豊永営農団地入植準備進む 1
- (3) 集落営農法人の収益を高める取り組み 2
- (4) 経営感覚を身につけよう！～ステップアップ研修会～ 2

2 新しい技術への取り組み

- (1) 水稻密播育苗のポイント 3
- (2) 植物成長調整剤を利用した夏秋トマトの裂果軽減対策 4

3 新品種導入による産地活性化

- もも新品種「白皇」、「白露」の調査結果から 5

4 基本技術で品質向上

- ピオーネ着色優良園の特長 6

5 新選花機導入で効率アップ

- りんどう新選花機導入で出荷量アップ 7

6 その他

- (1) 第一回「新見市和牛担い手の会」開催！！ 8
- (2) 高校生が研究！米粉クリームコロッケ！ 8
- (3) 地域の特産物に「夏秋いちご」の取り組み 9
- (4) 新見農業士会が農協組合長と意見交換 9

7 今年輝いた人

- (1) 平成 30 年度 岡山県農林漁業功労者表彰 10
- (2) 平成 30 年度 新見市桃共励会 10
- (3) 平成 30 年度 新見市花卉共進会 10
- (4) 平成 30 年度 新見市ピオーネ共励会 11
- (5) 第 73 回 岡山県畜産共進会 11
- (6) 第 57 回 岡山県枝肉共進会 11

表紙写真 左上：トマト裂果対策

右上：水稻密播現地検討会

中央：チーム新見ピオーネ研修会

左下：りんどう定植（集落営農法人）

右下：「白皇」掛け袋の違い

■ 1 担い手確保と育成

（１）新見で農業を始めませんか ～相談会や短期農業体験研修でPR～

大阪や岡山など各地で開催される就農相談会に、生産部会長や県内外から新見に移住、就農した先輩参入者が積極的に参加し、相談者の質問に答えながら新見市の良さをPRしています。

今年度は、岡山市で開催された相談会（２回）で新見ブースを訪れた相談者のうち５組９人（前期４組７人・後期１組２人）が地域オリエンテーションに参加されました。うち１人が１１月に開催された農業体験研修面接会に臨まれ、今後、１か月間の農業体験研修を受けられる予定です。

また、短期農業体験研修に７組８人の参加がありました。この研修は、ぶどう、トマト、りんどうについて日帰りから１週間程度で実施しています。篤農家や先輩参入者等が受入農家となり、地域との交流や農作業を体験するものです。研修生のうち、２人がぶどうで農業実務研修に入り、頑張っています。

普及指導センターでは、引き続き地域の生産者や関係機関と連携し、ほ場や空き家などの情報提供、先輩参入者や研修生等との交流や定期的な訪問により、技術支援や研修状況を確認しながら、就農につながるよう支援していきます。



就農相談会



ピオーネの誘引体験

（２）豊永営農団地入植準備進む

６月７日、市、農協、普及指導センターと地元ぶどう生産者で構成する豊永営農団地対策チームは、新見市豊永公民館で、情報交換と現地の土壌調査を行いました。

豊永営農団地（平成２８年度末完工：１５，０２０㎡）の造成経過の説明と土壌改良の方法や排水対策、県内外の造成地の事例について情報交換しました。

その後、農林水産総合センター（普及推進課、環境研究室）の協力を得て、造成ほ場の土壌のサンプリング、断面調査を実施しました。

８月２２日には、土壌調査結果に基づき、排水対策として天地返し、暗きょの設置等を検討し、実施することとしました。

９月には入植予定者の３名がほぼ決まり、３月のぶどう苗定植に向け、土壌改良、定植準備などの技術支援を行う予定です。



造成ほ場土壌調査

(3) 集落営農法人の収益を高める取り組み

新見市内には平成23年以降に設立された集落営農法人が5つあります。農業者の高齢化に伴う農地の維持と、今後の地域の活性化を図るためいずれも農事組合法人が設立されています。農地中間管理事業を活用して農地を集積し、集落内の水田農業経営の中心的な担い手になっています。

その中には、水稻を主体としながら、収益性を高める新たな取組に挑戦している法人があります。

キャベツ、ケールなどの契約野菜やなたまめなどの特用作物、りんどうやアスパラガスなどの園芸品目の栽培を経営に取り入れ、収益向上を目指しています。

高品質な作物を生産し、出荷量が増えることで、法人の収益が高まります。また、集落の多くの方が作業に携わり、従事程度に応じた金額が支払われることにより、収益が集落に還元されます。集落のまとまりが強まることは、集落営農法人設立の大きな成果と言えます。

今後も、作物の栽培管理を徹底し、法人の収益を高めていくことが望まれます。



りんどう苗の定植

(4) 経営感覚を身につけよう！ ～ステップアップ研修会～

普及指導センターでは、認定農業者や集落営農組織、新規就農者等の経営改善、発展を支援するためにステップアップ研修会を開催しています。

複式簿記初心者研修会では、2日間の実務を演習しながら簿記記帳の流れを学び、引き続きPC簿記研修で、専門家から複式簿記記帳の工夫やテクニック、ソリマチ簿記操作を学び、簿記記帳技術の習得を目指して頑張っています。

税務研修会では、税理士から税制改正のポイントや償却資産の償却方法、来年から導入される消費税の軽減税率制度など、分かりやすく教えていただいています。

また去年のアンケートで要望の高かった研修内容(図1)として、特に要望が増えた6次産業化についてもビジネスプラン作成研修として実施しています。

その他にも、希望する研修がありましたら、ぜひお知らせください。



ステップアップ研修(PC簿記)

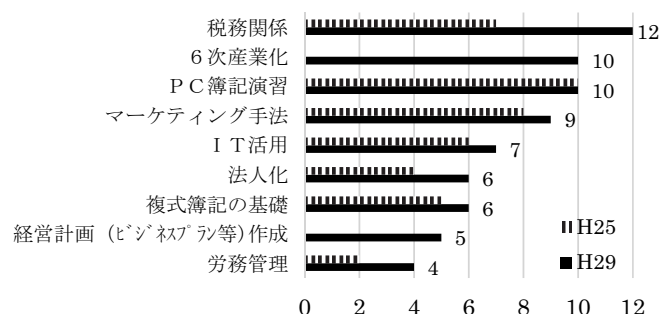


図1 希望する研修内容(H25,H29)

■2 新しい技術への取り組み

(1) 水稻密播育苗のポイント

普及指導センターでは、平成28年度から阿新農協水稻担い手部会、農協、農機具メーカー、哲西町矢田の「農事組合法人ファームやだたに鯉が窪」と連携して、水稻の育苗コストの低減を図るため「密播育苗」技術の実証に取り組んできました。

<「密播育苗」技術とは>

育苗箱1箱当たりの通常の播種量（催芽粃180g／箱）より多く（催芽粃200～300g／箱程度）播種して、専用田植機で掻き取り量を少なくして植え付ける技術です。苗箱数が削減され、育苗や苗運搬、田植えなどの労力や費用が低減できます。

3年間の実証から、苗箱の節減効果が確認でき、収量もほぼ慣行育苗と同等に得られました（表1、2）。

表1 密播育苗による苗箱節減効果

年 度	10a 当たり 苗箱数 (催芽粃 播種量 / 箱)		密 播 / 慣 行 (%)
	密 播 育 苗	慣 行 育 苗*	
30 年	8.9 (300g)	—	—
29 年	7.2 (300g)	13.2 (180g)	51
28 年	6.5 (330g)	16.0 (250g)	41

表2 収量調査結果

年 度	精 玄 米 収 量 (kg/10a)		密 播 / 慣 行 (%)
	密 播 育 苗	慣 行 育 苗*	
30 年	570	—	—
29 年	647	657	98
28 年	643	661	97

*平成30年は慣行育苗の試験区を設けていない。

次のとおり、密播育苗を行う場合のポイントをまとめました。

1 播種量の確保

- ・既存の播種機では、催芽粃で可能な厚播きは250g／箱程度までで、それ以上の播種量の場合は、厚播用播種機が必要となります。

2 苗立枯病対策

- ・厚播きになることで苗立枯病が発生しやすくなるので、播種時に苗立枯病の薬剤施用が必要です。
- ・また、出芽までに日数がかかると苗立枯病が発生しやすくなるので、育苗器での出芽とビニールハウスでの育苗を基本とします。

3 徒長防止と適正な施肥・植付本数

- ・苗が軟弱徒長になりやすく、育苗中の高温に注意が必要です。また慣行育苗より数日早く植え付け適期となるので、植え遅れに注意します。
- ・本田初期から茎数が増えすぎると無効分げつが多くなり減収します。初期生育が遅れても、慣行どおりの施肥量と植付本数で作り過ぎないことが必要です。

4 専用田植機の必要性

- ・既存田植機でも、かき取り量を最少にすれば、密播苗の移植は可能ですが、専用田植機に比べて欠株が多くなる恐れがあるため、丁寧に植え付けます。

5 当面の密播育苗の導入方法

- ・催芽粃300g／箱程度の密播育苗に一気に取り組むのではなく、健苗が確保できる範囲で厚播きし、欠株に注意して1～2割程度の箱数減を目指しましょう。

(2) 植物成長調整剤を利用した夏秋トマトの裂果軽減対策

夏秋トマトでは、8月中旬～9月下旬にかけて放射状裂果が発生し、秀品率の低下が問題となっています。

近年、登録拡大となった植物成長調整剤「フルメット液剤」を幼果期に散布すると、放射状裂果軽減の効果があることが報告されています。

そこで、本年度は、フルメット液剤の新見地域での適応性確認と、噴霧器による作業性について検討しました。



放射状裂果

1 散布方法

今回の試験では、各段果房第1果の幼果実が3～4cm大を目安に20ppmで、7月25日～9月12日までの夕方に1～2週間の間隔で処理しました。

また、散布には噴霧器「らくらくカップ2」を使用しました。

表1 フルメット液剤の登録内容

使用目的	使用時期	使用濃度	使用方法	使用回数
放射状裂果軽減	幼果期	5～20ppm	幼果に散布	1果房当たり1回

2 効果

8月中旬から9月下旬までフルメット区の裂果発生率が無散布区よりも低い結果となりました(図1)。

また、「らくらくカップ2」では薬液が回収されるため、経済的に散布することができました。しかし、斜め誘引の場合は支柱が邪魔になったり、果房が固定されていてカップに入れづらいなどスプレーで散布した方が効率的な場合もあります。

今回の試験から、新見地域でもフルメット液剤による放射状裂果軽減の効果が期待できることが分かりました。フルメット液剤を試してみたい方はお気軽に普及指導センターにご相談ください。

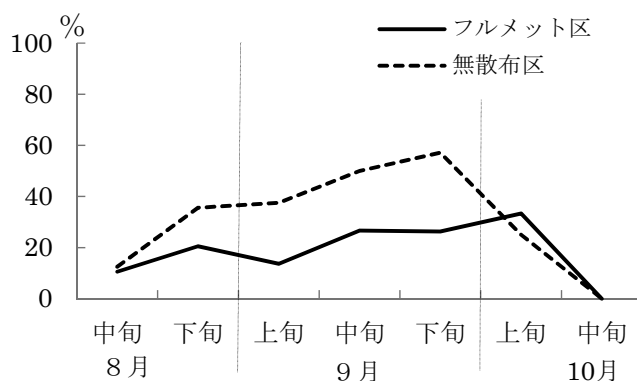
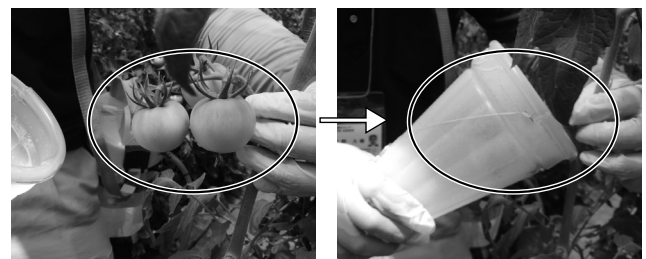


図1 旬別裂果発生率



容器の周縁から散布



「らくらくカップ2」での処理

■ 3 新品種導入による産地活性化

もも新品種「白皇」、「白露」の調査結果から

平成27年から草間地域で試験栽培している岡山県オリジナル品種「白皇®（はくおう）」と「白露®（はくろ）」の果実品質と裂皮・汚れ程度について調査しました。

<果実品質>

今年度は、7月～8月の高温少雨の影響を受けたことにより全体的に小玉傾向となりました。

「白皇」は、9月10日に成熟期となりました。平均の果実重は201gと昨年と比べて小さかったものの、平均糖度は18.7度と高く19度を超えたものもあり、食味は良好でした（表1）。

表1 「白皇」の果実品質（H28～30）

	調査日	果実重 (g)	糖度 (Brix)
H28	8月31日	276	18.1
H29	8月30日	315	18.5
H30	9月10日	201	18.7

表2 「白露」の果実品質（H29～30）

	調査日	果実重 (g)	糖度 (Brix)
H29	9月8日	380	13.5
H30	9月12日	274	13.3

「白露」は、9月12日に成熟期となり、「ゴールデンピーチ」の成熟期と同じ時期になりました。平均の果実重は274g、平均糖度は13.3度でした（表2）。

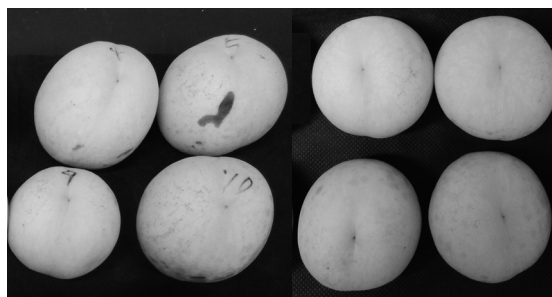
<裂皮、果皮の汚れ対策>

昨年度の調査では、「白皇」に裂皮と果皮の汚れ、「白露」に果皮の汚れが発生し課題となりました。高品質のももを安定生産するためには、裂皮・汚れの対策が不可欠です。

そこで、今年度は、裂皮・汚れを軽減させるために掛け袋の種類と袋掛け時期の違いが果実品質に及ぼす影響を調査しました。

その結果、「白皇」の裂皮は、二重袋を使用した方が、一重袋よりも5割程度発生が軽減され、果皮の汚れは一重袋と比べて二重袋が4割程度軽減できました。

また、袋掛け時期では、6月中旬の袋掛けが7月中旬に行ったものより裂皮は2割程度軽減され、早い時期の袋掛けも有効であることが分かりました。しかし、果皮の汚れには大きな差は認められませんでした。



一重袋 二重袋
「白皇」の掛け袋による裂皮の違い

今回の調査で、裂皮の発生軽減のためには、二重袋を6月中旬までに掛けることが有効であることが分かりました。果皮の汚れについては課題が残りました。

普及指導センターでは、引き続き両品種の果実品質を調査するとともに、裂皮・果皮の汚れ対策について検討していきます。

■ 4 基本技術で品質向上

ピオーネ着色優良園の特長

平成29年産ピオーネは果粒肥大が良く、大房傾向であり、着色期の高温も影響し、着色が非常に悪かった年でした。そうした中でも着色が良好な事例がありました。今後の高品質生産に活かすため、着色優良な2園の特長（樹姿や栽培管理）について調査しました。

優良園の果皮色は、今年度も8.9と9.5（カラーチャート示度）と非常に良好でした。



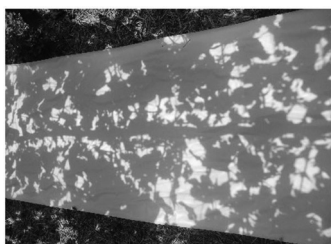
優良園の着色良好なピオーネ

〈枝葉の特長〉

- ・新梢の基部径は、開花期に11～12mm、果粒軟化期に14mm。
- ・着房節の葉幅は、21～22cm。
- ・第5節の葉色は、開花期に十分濃くなっている（SPAD値で45～47）、果粒軟化期までは葉色を維持している。
- ・新梢長は、開花期に100～110cm（摘心前）、果粒軟化期には摘心節まで110～120cm。
- ・葉数は、1新梢当たり本葉12葉、副梢葉14葉（房まで4葉、房先10葉）。副梢葉は各節1～2葉、多くても3葉残している。
- ・主枝3m当たりの新梢本数は、25～30本程度。
- ・着色始めの葉面積は、1新梢当たり5,500～5,800cm²、LAI（葉面積指数）は2.5程度。
- ・本葉が大きく、本葉で葉面積3,800cm²程度、副梢葉で葉面積1,600～2,000cm²確保している。

〈果房の特長〉

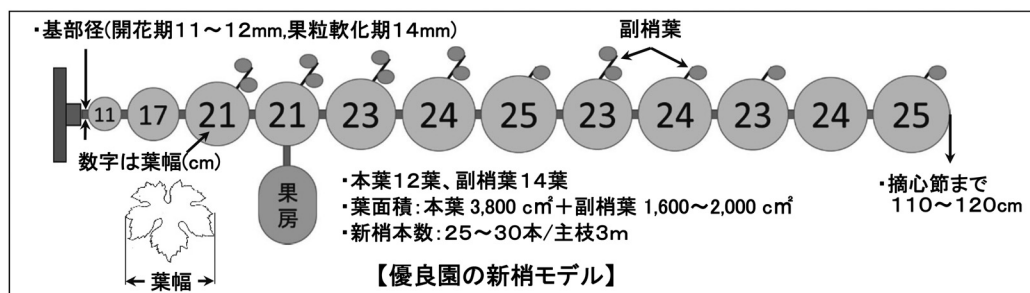
- ・房づくりは、穂軸長は6cm、1房当たり粒数は35粒（1粒20g以上）。
- ・着房数は、主枝3m当たり18～19房。
- ・平成30年は果粒が大きく、一果房が750～800gであった。葉面積が確保されていたので、1kgの果実を賄う葉面積は、約10,000～11,000cm²となった。



樹冠下の木漏れ日具合（8月上旬、LAI=2.4）



下から棚面を見上げた時の葉の茂り具合



着色優良園の枝葉や果房の特長を参考に、樹づくりや房づくりを行いましょう。

■5 新選花機導入で効率アップ

りんどう新選花機導入で出荷量アップ

阿新農協花卉部会りんどう生産部は、今年度、新見市高尾に新しい選花場を開設しました。これを機に新選花機を2台導入し、選花の省力化、高速化を図り出荷量の増加を実現しました。

新たに導入した選花機は従来の長さ選別に加え、センサーによる本数計測とロボットアームによる結束機能を備えており、1日当たりの選花本数が1.7万本から、3万本に増加しました。さらに選花作業時間が短縮され、作業員さんの負担軽減につながっています。

以前は、選花場の負担を軽減するため、個人選別していた生産者も、選花場での共選出荷が可能となり、選花にかかる時間を栽培管理に集中することで、品質が向上したとおおむね好評でした。

また、部会では新見産のりんどうの知名度を上げるため、県南のスーパーでの販売促進イベントを盆前、彼岸前の2回行いました。これには、生産者も多く参加し、実際に店頭で客に声をかけるなど部会全体で、りんどうをPRしました。

その結果、当該スーパーでのりんどうの売り上げが前年対比108%と大きく伸び、担当のバイヤーや市場関係者も手応えを感じているようで、来年はもっと規模を大きくして続けたいと意気込んでいました。

買い物客からは「りんどうは長持ちするから使いやすい。」「ピンクや、白色は珍しいので買ってみた。」などの声が聞かれ、徐々にりんどうが定着してきていると実感できました。

今年度は、7月豪雨による冠水や、その後の異常高温、また、たび重なる台風の襲来など気象条件の厳しい年となりました。にもかかわらず、生産者皆さんの努力により部会で目標としていた、出荷量100万本、販売金額5千万円を達成することができました。

今後、普及指導センターでは、この数字を上回るよう、水害で傷んだ株の対策や新規栽培者の確保等で、協力、支援していく予定です。



新選花機と搬入されたりんどう



県南スーパーでの販売促進フェア

■6 その他

(1) 第一回「新見市和牛担い手の会」開催！！

10月25日に第一回「新見市和牛担い手の会」の研修、交流会が開かれました。

この会は、数少ない畜産の担い手の絆を深めようという目的で開催され、和牛繁殖経営の後継者や新規就農者、和牛関係の企業に就職した若手職員、地域おこし協力隊員（カウボーイ）をはじめ、新見市内の中堅和牛繁殖農家、関係機関の畜産関係職員など22名の参加がありました。

研修会では、「新見市における和牛改良の歴史」という演題で新見市和牛改良組合の江田組合長の講演、平成34年度に鹿児島県で開催される第12回全国和牛能力共進会について、県農林水産総合センター畜産研究所の小林研究員が岡山県の取組方針、スケジュール等を説明しました。

最後に参加者全員で交流会を行い、受精卵移植技術や和牛に関係する補助事業など、以前から聞きたかったこと、関係機関に相談したかったことについて積極的に情報交換しました。

今後、県内外への視察研修を計画しており、担い手同士の関係をより深めていければと思っています。

(備中県民局農畜産物生産課畜産第二班)



「新見市和牛担い手の会」研修会

(2) 高校生が研究！米粉クリームコロッケ！

普及指導センターでは、新見市内で米粉の需要拡大や食料自給率の向上をめざして、生産者や消費者、商工団体や行政などで組織した「新見市米粉利用促進協議会」（会長：水上真一、事務局：アクティブ哲西）の活動を支援しています。

今年度は米粉を使用した惣菜について新見高校の協力を得て8品のレシピを考えてもらい、その中から手軽でおいしいものを研究し、販売促進につなげようと取り組みました。



米粉の惣菜を試作した高校生

11月14日(水)、道の駅「鯉が窪」の体験室で試食会を開催しました。当日は生物生産科の4名の生徒が「米粉クリームコロッケ」を試作し、関係者20名が試食、アンケートを行いました。参考商品として「チヂミ」「米粉パウンドケーキ」「チョコチップケーキ」「米粉シチュー」の試食も行いました。コロッケは新見特産の千屋牛や椎茸などを入れて食べやすい俵型に成形し、米粉の「もちっと、サクッと」とした食感をうまく引き出していました。12月限定で道の駅鯉が窪のレストランで提供されました。普及指導センターでは今後、高校やアクティブ哲西と検討し、商品化に向けて推進していきます。

(3) 地域の特産物に‘夏秋いちご’の取り組み

年間を通して需要がある‘いちご’に着目し、新見地域の冷涼な気候を活かした県オリジナルの四季成り性品種を用いた夏秋どり栽培を検討しました。

新見市いちご研究会（事務局：普及指導センター）では、平成27年10月に四季成り性いちご「岡山STB1号」の親株を導入し、神郷高瀬で現地適応性を実証しています。

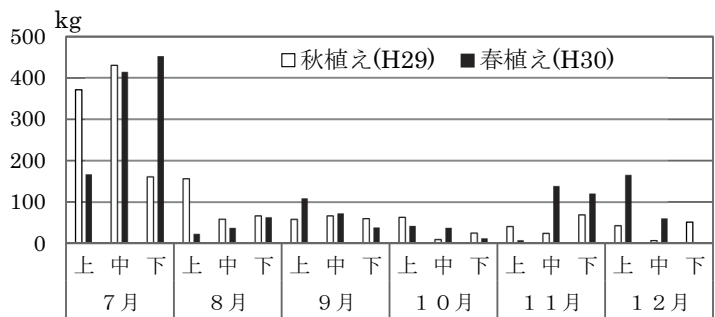


図1 7～12月旬別収量 (kg/10a)

ハウスでの栽培は、平成28年10月定植、平成29年12月まで収穫の秋植え栽培、平成30年は4月26日～27日定植で12月中旬まで収穫の春植え栽培を行いました。

結果、7～12月の10a当たり収量は、秋植え栽培1,770kg、春植え栽培1,955kgと目標収量(1,500kg)を確保できました(図1)。

今年は、ケーキ、タルト、スムージーなど市内で業務用に使用され、今後も販売先のニーズを聞きながら、安定的に供給できる栽培技術を確立し、新見市の特産物となるよう取り組んでいます。



夏秋いちごを使ったスイーツ

(4) 新見農業士会が農協組合長と意見交換

8月9日、新見農業士会（会長：田中邦男、事務局：普及指導センター）は、会員10名が参加して、阿新農業協同組合の山本代表理事組合長を囲んで「新見の農業を語る会」を開催しました。喫緊の課題である新見地域の担い手確保と育成について意見交換しました。

組合長からは、「新見は農業が基幹産業である。20年後の方向性を見据えながら、地域の担い手ができない部分（土づくり、防除等）を農協が支援していくことも考えている。農業士の方のご協力をお願いしたい。」と挨拶がありました。

意見交換会では、これまでの新規就農事業の推進に加え、より多様な担い手確保対策として、65歳以上の定年帰農希望者に向けた情報発信や後継ぎ型就農に対する支援施策の創設などについて活発な意見が出されました。



山本代表理事組合長を囲んで

■7 今年輝いた人

(1) 平成30年度 岡山県農林漁業功労者表彰

◎岡山県知事表彰（農産部門）

田中 邦男（豊永）

◎岡山県農林水産部長表彰（農産部門）

加藤 完二（哲西）

(2) 平成30年度 新見市桃共励会

平成30年7月18日にJ A阿新生活センターで開催され、30点の出品がありました。平均糖度は12.8度（最高16.8度）で、ロイヤルの基準糖度を上回ったものが8割を占めており、非常に良好でした。

◎最優秀賞 新見市長賞

林 一雄（草間）

◎優秀賞 岡山県備中県民局長賞

福水 静江（草間）

〃 岡山県備中県民局農林水産事業部長賞

谷口 章（草間）

〃 岡山県農業協同組合中央会長賞

田中 強（草間）

〃 全国農業協同組合連合会岡山県本部長賞

堀江 利明（草間）

(3) 平成30年度 新見市花卉共進会

平成30年9月19日にJ A阿新生活センターで開催され、29点（りんどう、きく、トルコギキョウ）の出品がありました。

◎最優秀賞 新見市長賞

田辺 薫明（神郷）

りんどう・しなの3号

◎優秀賞 岡山県備中県民局長賞

池川 博泰（哲多）

りんどう・ファーストラブ

〃 岡山県備中県民局農林水産事業部長賞

三好 充（哲西）

りんどう・夢ハイジ2号

〃 岡山県農業協同組合中央会長賞

本田 光夫（哲西）

りんどう・しなの4号

〃 全国農業協同組合連合会岡山県本部長賞

後藤亜紀美（哲西）

りんどう・レッドワンセト

〃 全国農業協同組合連合会岡山県本部長賞

鈴江 寛（哲多）

小菊・いつき

(4) 平成 30 年度 新見市ピオーネ共励会

平成 30 年 9 月 21 日に J A 阿新本所で開催され、65 点の出品がありました。平均粒重は、21.4 g（最高 27.8 g）、平均糖度は 18.2 度（最高 19.9 度）でした。

◎最優秀賞 岡山県知事賞

田中 邦男（豊永）

◎優 秀 賞 新見市長賞

家本 弘彦（豊永）

〃 岡山県備中県民局農林水産事業部長賞

長岡 一郎（草間）

〃 岡山県農業協同組合中央会長賞

浅田 裕基（豊永）

〃 全国農業協同組合連合会岡山県本部長賞

長嶋 好伸（豊永）

〃 岡山県農業共済組合連合会長賞

山田 憲次（草間）

(5) 第 73 回 岡山県畜産共進会

平成 30 年 10 月 14 日、真庭市の総合家畜市場で開催されました。県内各地の予選を勝ち抜いた肉用種々牛 50 頭、乳用種牛 83 頭が出品されました。

◎団体優勝

肉用種々牛の部

新 見 市

◎グランドチャンピオン

若雌区の 2 あおきはるか

有藤 剛（哲多）

◎優等首席

若雌区の 1 きよかつひら 8 6

西田 利江（大佐）

◎知事感謝状贈呈

宮本 武博（大佐）

(6) 第 57 回 岡山県枝肉共進会

平成 30 年 12 月 6 日、岡山県営食肉地方卸売市場で開催されました。県内各地から和牛 70 点、肉豚 30 セットが出品されました。

◎第 1 部（和牛去勢の部）

最優秀賞 4 席

（有）哲多和牛牧場（哲多）

◎第 2 部（和牛雌の部）

優秀賞 首席

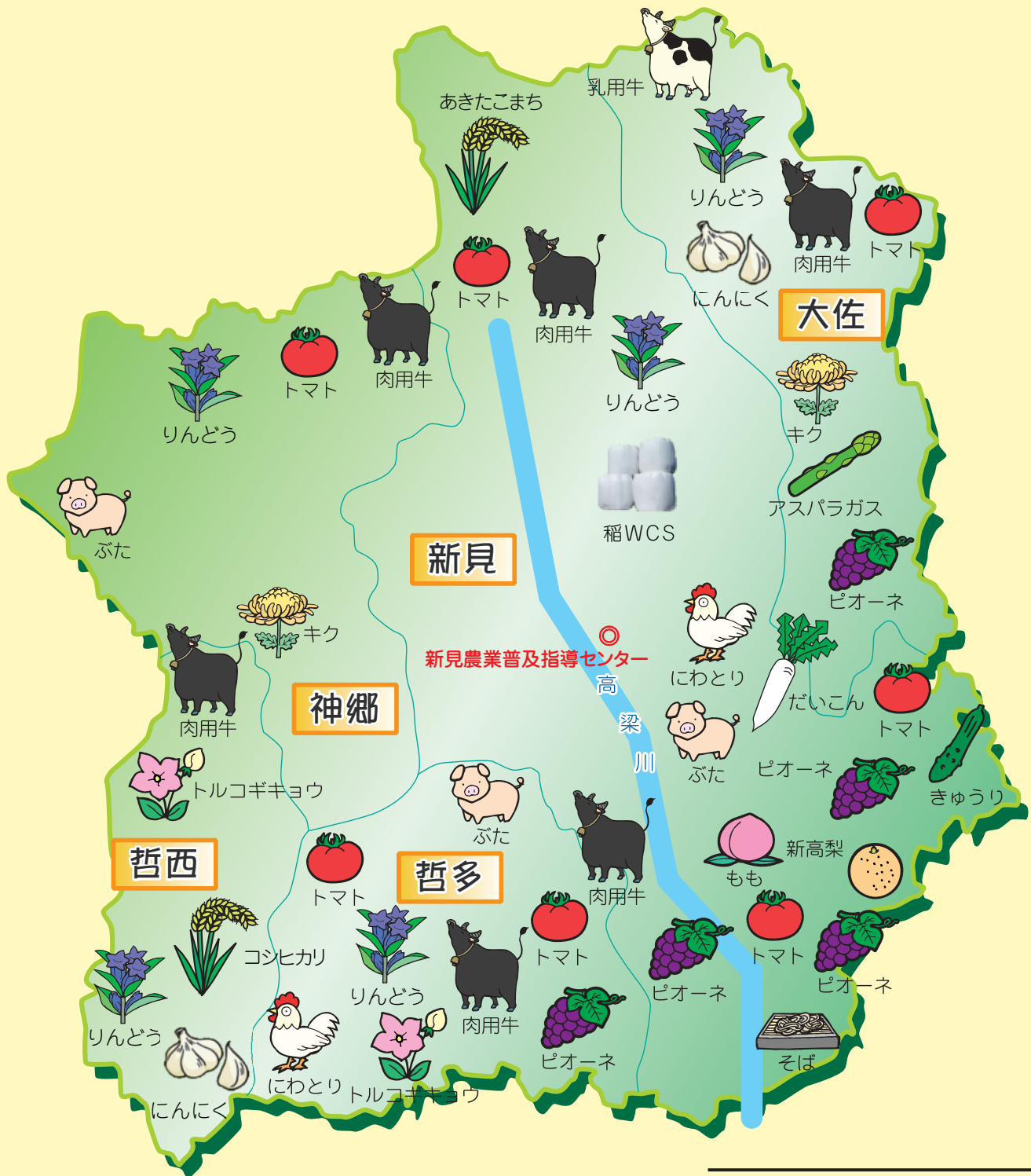
（有）哲多和牛牧場（哲多）

◎第 3 部（肉豚の部）

最優秀賞 2 席

岡山 J A 畜産（株）吉備農場（哲多）

新見市の主な農畜産物



岡山県備中県民局農林水産事業部
新見農業普及指導センター

〒718-8550 岡山県新見市高尾 2400

担い手・農産班 TEL(0867)72-9177

園芸班 TEL(0867)72-9179

FAX(0867)72-0495

e-mail: niimi-fukyu@pref.okayama.lg.jp

ホームページ

新見農業

検索



ホームページ
QRコード



Facebook
QRコード